

芸術専修

図画工作分野 美術分野

小学校
コース

中学校
コース

美に触発される意欲 意欲が創る人と社会

本分野では、美術表現の幅広さや奥深さ、教育の意義を学ぶことを目標に「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史、美術科教育」の6つの領域から構成されたカリキュラムで学びます。そのため1・2年次は、全領域をバランス良く学修し、造形美術活動の楽しさを体験すると共に、美術の各領域の教育方法・内容の基礎を身に付けます。3年次は、教育実習で教育指導の経験を積むと同時に、将来、各自が自信を持って教師として活躍出来るようになるため、興味・関心を抱いた領域を探究し、自らの専門性（個性）となる研究テーマを明確にして行きます。4年次は、研究テーマに関する卒業研究（作品制作または論文執筆）に取り組み、その成果を、大学教育の集大成である卒業展覧会において発表します。

多くの卒業生は小学校・中学校・高等学校の教員になりますが、大学院への進学者もあり、美術教育の実践者及び研究者として幅広く活躍しています。

こんな授業 こんな研究

内田 裕子 教授

思えば、様々な授業を行って参りました。図画工作科や美術科は遊びと言われる様に、私にとっては授業も遊びだからです。それは図画工作科に「造形遊び」があること、美術がそれ自体を目的にする行為であり、遊びと同じ構造を持つことが保証してくれます。従って私の研究テーマも授業に没頭出来る教材開発です。見るもの聞くもの触るもの等の全てが教材の素材になりますが、写真はノルウェーの民俗博物館内のスターヴ（樽板）教会で素材の取材に没頭する場面(?)です。そのため授業でも、各自が楽しい授業を作る教材開発力を身に付けて貰うことを目指しています。材料から発想し構想して形を作る過程は、問題解決に挑む人間の営みに他なりません。そこに加わる「美」は表現の原動力です。美がその過程に楽しさや喜び等の彩りを与え、自分や社会を創る意欲を与えてくれます。そうした創造の原型を指導する方法を考えるのが、私が専門とする美術科教育学です。



絵画基礎実技



中等美術科指導法



ミュージアム・コラボレーション

STUDENT'S
VOICE



4年生
小林 美里

図画工作・美術分野では、全ての専門領域を一通り学んだ後、自分の専攻したい領域を選択します。自分の表現をより伸ばすことができるのはもちろん、将来、教師になった場面を想定した指導者側の視点も同時に学ぶことができます。また、少人数制であるため、先生方や学年を超えた学生同士の交流が多く、互いに高め合いながら楽しく学ぶ環境が整っています。実践的な学びを得られるこの専修で、私たちと一緒に学んでみませんか。

専任教員

小澤 基弘	絵画(油彩・アクリル)
高須賀昌志	デザイン
石上 城行	彫刻
内田 裕子	美術科教育学
平野 英史	美術科教育学・工芸

主な授業科目

中等美術科指導法、絵画基礎実技、絵画研究、彫刻基礎実技、彫刻研究、デザイン基礎実技、デザイン研究、工芸基礎実技、美術史概論、日本美術史、造形芸術学概論、美術理論、ミュージアム・コラボレーション 他